

日本学術会議「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」2008.12.19

グローバル化時代の大学教育

ーアメリカの大学及びICUの教養教育を中心にー

藤田英典
国際基督教大学

本報告資料は「高等教育大衆化時代における大学の理念と課題」(「第2回ミュンヘン大学・東京大学シンポジウム／大学の倫理」東京大学2002年3月21-23日、参考文献参照)及び“University Reforms and Quality Assurance in Japan: The Paradigm shift and Market Competition in Higher Education,” The Conference on “Challenges and Responses of Higher Education in the 21st Century” (30th April 2004, The Center for the Study of Higher Education at Tamkang University, Taiwan)の報告・講演資料に「ICUの教学改革」部分を追加し、国内大学等での講演で用いたてきたものを微調整したものである。

構成:

1. 教育改革の時代

— 変動社会における大学教育

2. 学部教育改革

— カリキュラムと教授・学習の在り方

3. ICUの教学改革

4. グローカル化時代における大学教育 のミッション

1. 教育改革の時代

背景:

1) 変動社会

趨勢的変化: ICT化、グローバル化、知識社会の進展

- ・技術革新・知の再編
- ・市場のグローバル化
- ・民主主義・生涯学習

2) 高等教育の拡大

- ・学生(学力・興味関心・ニーズ)の多様化

3) イデオロギーの変化

- ・新自由主義・新保守主義、市場化、説明責任

4) パラダイム・シフト

- ・クローズド・システムからオープン・システムへ

1. 教育改革の時代

大学改革の動向（初中教育は80年代から再構造化）：

1980年代まで：拡大の時代（Golden Age）

1990年代以降：再構造化の時代

改革の4領域：

- ・教育：学部・学科・専攻の新設・再編・名称変更
大学院の新增設・拡大
カリキュラム、教育内容、教授・学習方法
ガイダンス 等
- ・研究：研究成果の評価・公開、競争的資金の獲得
市場的価値・社会的有用性の向上 等
- ・経営：卓越性・効率性・市場性・説明責任
- ・評価：質保証・質向上（QA/QE）、成果主義（OBE）？

2. 学部教育改革

1) 学部改革の動向

★目的:

学部教育の適切性・卓越性・魅力・市場的価値・説明責任、大学としての生き残り

★背景:

- ・学生の多様化: 学力・興味関心・生活様式
- ・グローバル化と知の再編
- ・説明責任と質の向上
- ・若年高等教育人口の減少
- ・大学設置基準の大綱化、それ以降の大学政策

2. 学部教育改革

1) 学部改革の動向(2)

★具体的改革

- ・**組織改革**：学部・学科・専攻の再編・新設・名称変更、大学間連携・遠隔教育
- ・**カリキュラム改革**：履修要件の再編、ダブル・メジャー制・メジャー／マイナー制の導入、特化プログラムの新設
新規科目・学際科目・総合科目の新設、学外体験学習
- ・**授業内容の再編・更新**：学問の発展・知の再編・学生の関心の変化等に対応した授業内容の更新
- ・**教授学習方法の改善**：シラバス公開、授業評価、小人数クラス、学習形態の多様化、ICT等の活用(e-learning)、FDプログラム 等
- ・**ガイダンス**：アドバイザー制、GPA制・CAP制、キャリア・ガイダンス(就職指導) 等

2. 学部教育改革

2)カリキュラム改革(1)

★学部教育の2つのモデル(19世紀以降)

- ・ヨーロッパ大陸型: 専門教育中心
 - ・アングロサクソン型: 一般教育／教養教育重視
- 戦後日本の大学: 両モデルの統合

★カリキュラム改革の背景と課題

- ・一般教育批判: 寄せ集め、魅力の低さ、形骸化
- ・学生の学力・興味関心の多様化
- ・グローバル化・多文化流動社会・知の再編
- ・専門的・実用的知識に対するニーズの増大
- ・文化的・道徳的退廃に対する関心の増大

2. 学部教育改革 2)カリキュラム改革(2)

★学部カリキュラムの3つの概念

—20世紀後半のアメリカの大学の場合(専門教育は大学院)

対立する考え方: Breadth重視／Core重視／Concentration重視

必修重視(系列別選択必修を含む)

／選択重視(shopping mall?)

古典重視(Great Books)／ディシプリン重視／

現代的レリバンス重視

▪ **Liberal Education (LE)** ← 自由7科(3科: 文法・修辞学・論理学、
4科: 算数・幾何・天文・音楽)

～自由な精神を育む知的教養

▪ **General Education (GE):** 非専門的学習
～現代社会・世界・生活・環境に関わる学際的・総合的視座
～民主主義社会における市民性・社会的責任・自己啓発
のための総合的・統合的学習

▪ **Core Curriculum (CC):** GE Core, LA Core, University Core,
Common Core, Basic Studies, Cultural Core, etc.

～専門教育・継続教育のための基礎的知識・技能(literacy)
教養ある市民としての基礎的教養

2. 学部教育改革 2)カリキュラム改革(3)

★ アメリカの大学におけるカリキュラム改革 (Swinging Pendulum)

コロンビア大学(コロンビア・カレッジの一般教育GE)

1919 コア科目: 現代文明、人文学A、人文学B

1990 コア・カリキュラム改革 (de Bary Report, 1988)

履修要件: CC (小規模セミナー) + メジャー/特化集中プログラム Concentration

CC: 現代文明(経済学・政治学・哲学・歴史学)、Literature Humanities、
Art Humanities、Music Humanities、文化、科学、論理学・修辞学、外国語、体育

ハーバード大学(ハーバード・カレッジの一般教育GE)

1945 “Red Book” Report (学長コナント、人文・社会・自然の3系列、古典重視、自由な民主社会の多様性)

1979 Core Curriculum

1997 Core Review Committee, Working Paper, Feb. 28

2005 Report of the Committee on General Education, Nov.

GE履修要件: Arts and Humanities 3科目、Study of Societies 3科目、Science and Technology 3科目 (目的: 諸領域の統合的・概括的導入と概念的枠組みの習得)
+ effective writing (1年次)、外国語、国際経験

シカゴ大学

1930 R.M.Hutchins's reform: 4 graduate divisions + college division

1965 E. Levi's reform: College division → Collegiate divisions

1999 Undergraduate curricular reform (履修要件: 42クォータ)

履修要件内訳: GE 15クォータ、特化集中プログラム 9-19クォータ、選択 8-18クォータ

GE (Common Core) の内訳: 人文学 6クォータ、科学 6クォータ、社会科学 3クォータ

◆ 知的・学問的な基礎的リテラシーの拡大、グローバル化する多文化流動社会への対応

2. 学部教育改革 2)カリキュラム改革(4)

★一般教育(GE)改革の主要課題

教育目的:教養人 Educated Personの育成

- a) 知的教養To liberate the mind for academic learning
- b) 市民形成To liberate the person for a responsible citizen
- c) 人間形成To promote personal development

アプローチ:専門分化の限界を超えるために

- a) 基礎的知識・技能Foundational knowledge and skills
- b) 文化的遺産と現代の諸問題Cultural heritage and Contemporary issues
- c) 参加的・統合的学習Participatory and integrated learning

内容領域

- a) 幅広い学問的基礎と知的技法
- b) 歴史的・文化的・領域的多様性
- c) 教室外での多様な学習・経験

3. ICUの教学改革(2008年4月～)

学科制からメジャー制へ

これまでのICUの学び

人文科学科

社会科学科

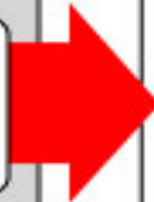
理学科

語学科

教育学科

国際関係学科

入学前に決めた6学科に所属して学ぶのがこれまでのICU



2008年春からのICUの学び

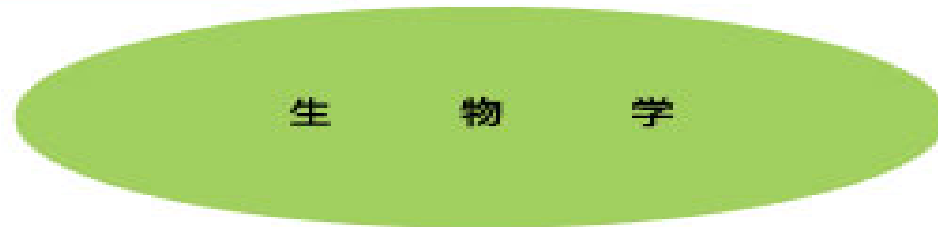
入学後に31のメジャーの中から自分の学びを組み立てるのがこれからのICU

美術・考古学
音楽
文学
哲学・宗教学
経済学
経営学
歴史学
法学
政治学
国際関係学
社会学
人類学
生物学
物理学
化学
数学
情報科学
言語教育
言語学
比較教育
教育・メディア・社会
心理学
メディア・コミュニケーションと文化
日本研究
アメリカ研究
アジア研究
ジェンダー・セクシュアリティ研究
開発研究
グローバル研究
平和研究
公共政策

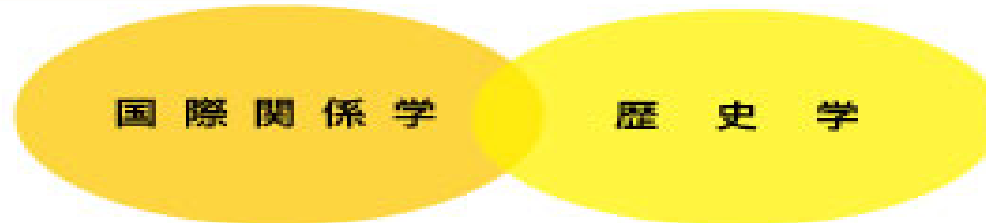
3. ICUの教学改革(2)

メジャー／マイナー制

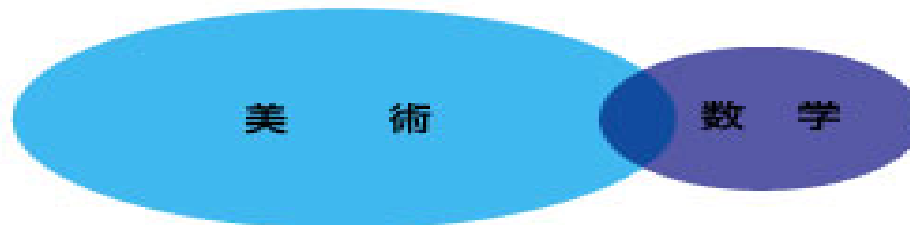
メジャーを1つ修める場合



ダブルメジャーの場合



メジャー、マイナーの場合



3. ICUの教学改革(3)

学年別の履修概念図



3. ICUの教学改革(4)

学部教育の課題

▶多様化する教育課題と制度的制約(4年制)

～アメリカ型(専門教育は大学院・コースワーク重視)を志向・前提するのか？

～仏アタリ報告1998年:通算3・5・8年制(学士・修士・博士、アメリカの学部4年+博士号取得平均期待年限4年に対応)？

▶語学教育、GE、専門教育をどう充実するか？

▶教養教育理念と現代的諸要請にどう対処し充実するか？

▶Core consistency/Relevanceの確保とGuidanceの充実？

▶就職活動による混乱にどう対処するか？

4. グローバル化時代における 大学教育のミッション

1) 大学の中心的機能

★大学の2つの原型

ボローニア大学: 学生のギルド

パリ大学: 教授のギルド

★大学の2つの主要機能

教育: 教授中心の教育 → 学生中心の教育

研究: 象牙の塔 → 社会・市場に開かれた研究

★組織的・機能的変化

大学の大衆化と学生の多様化

クローズド・システム → オープン・システム

ステーク・ホルダーの多様化

社会的・文化的な機能・貢献の重視・拡大

2) 学部教育の5つの機能

教養教育 Liberal education

学術専門教育 Academic education

職業教育 Professional education

学生生活 Space for college life

学位・資格 Credentials

4. グローカル化時代における大学教育のミッション

3) 大学教育の意義に関する学生の評価

a) 教養教育—指標：一般的・基礎的知識の取得

学術専門教育—指標：専門的知識の取得

職業教育—指標：職業的技能の取得

b) 学生生活

・人間形成—指標：友情を育む

・レジャー・ランドー指標：自由な時間を楽しむ

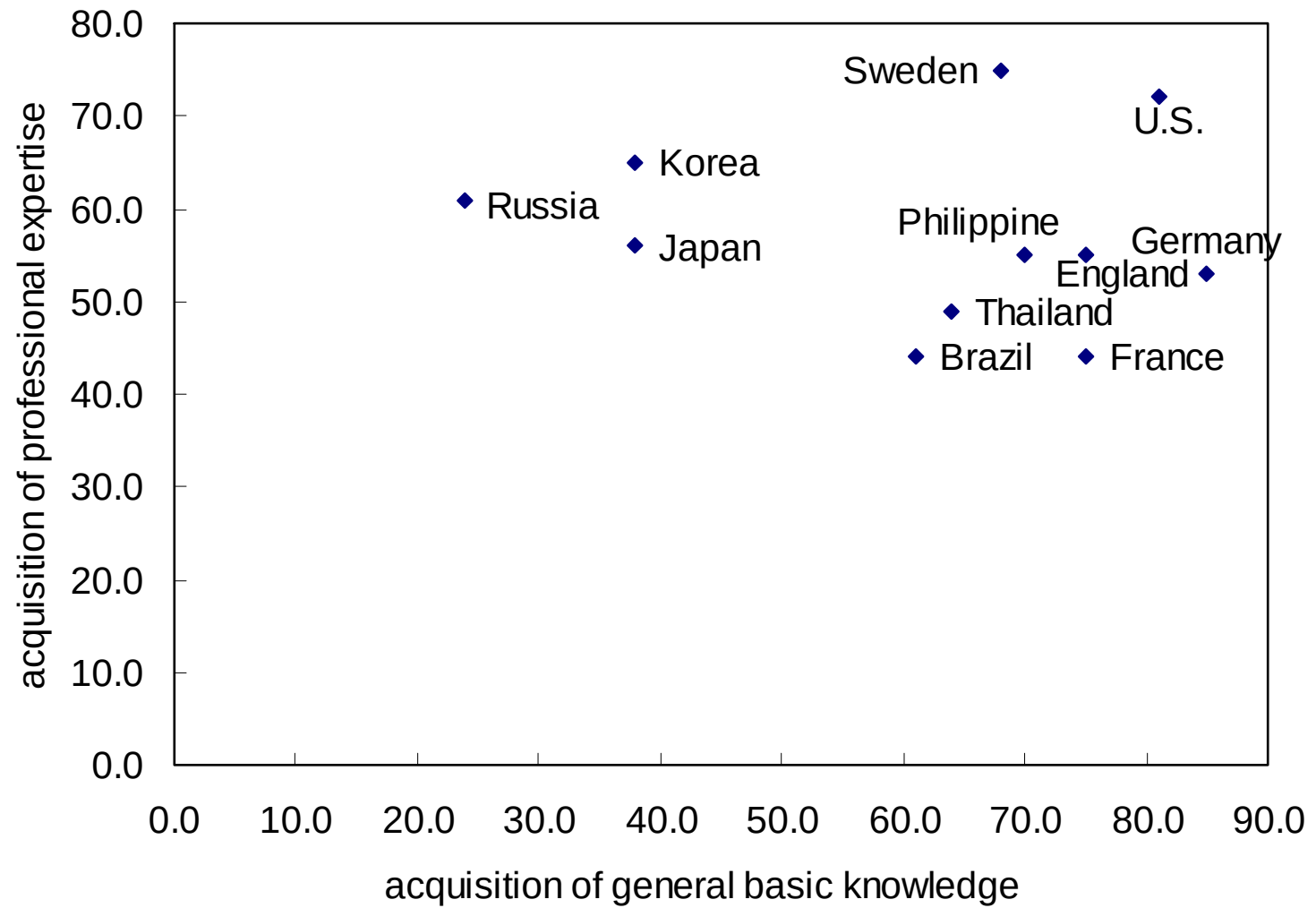
c) 学位・資格—指標：学歴・資格の取得

データ：第6回世界青年意識調査(1998年、総務庁青少年対策本部)

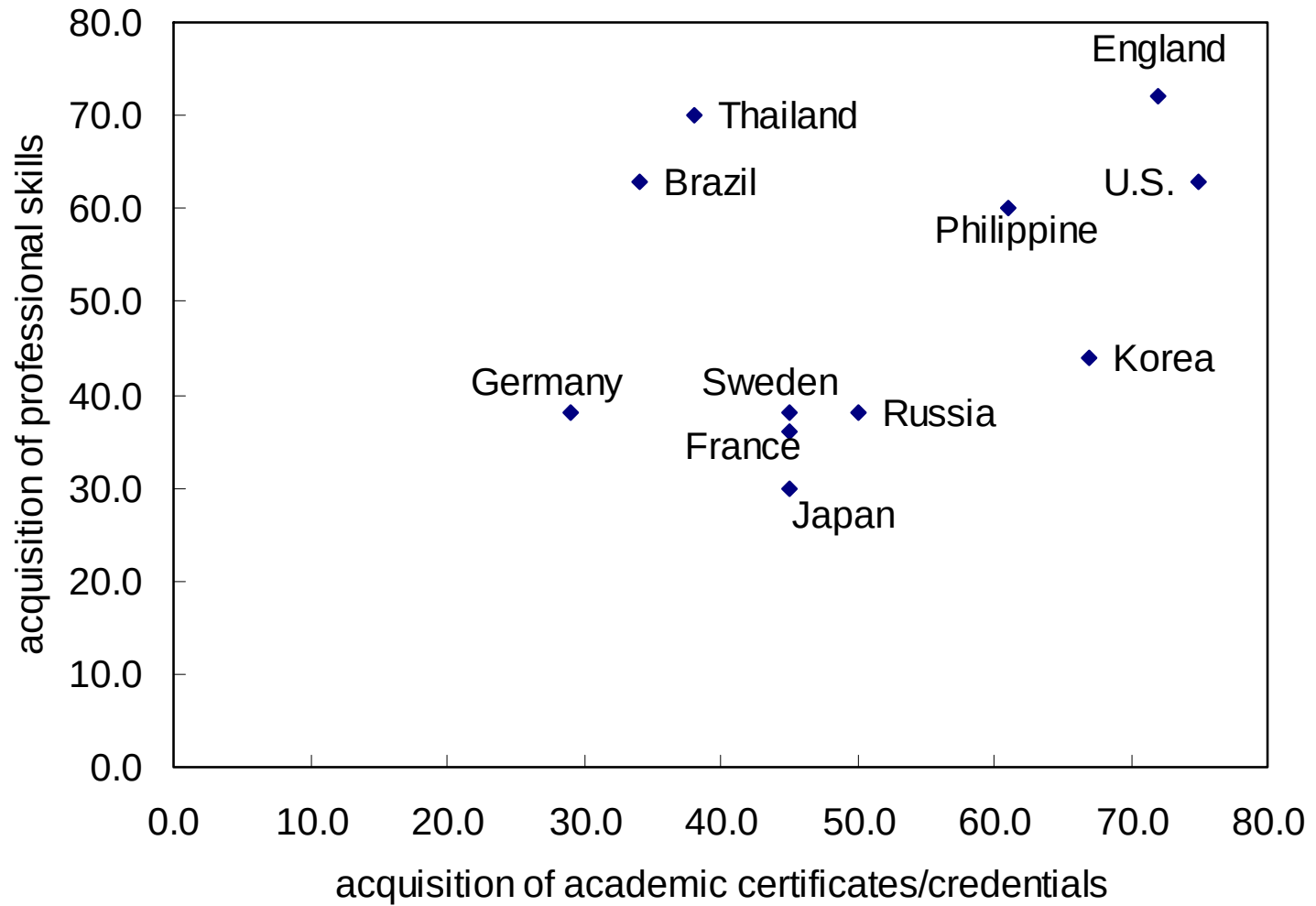
第7回世界青年意識調査(2003年、内閣府政策統括官)

図の出所：藤田英典1999, 2003, 2004(参考文献)

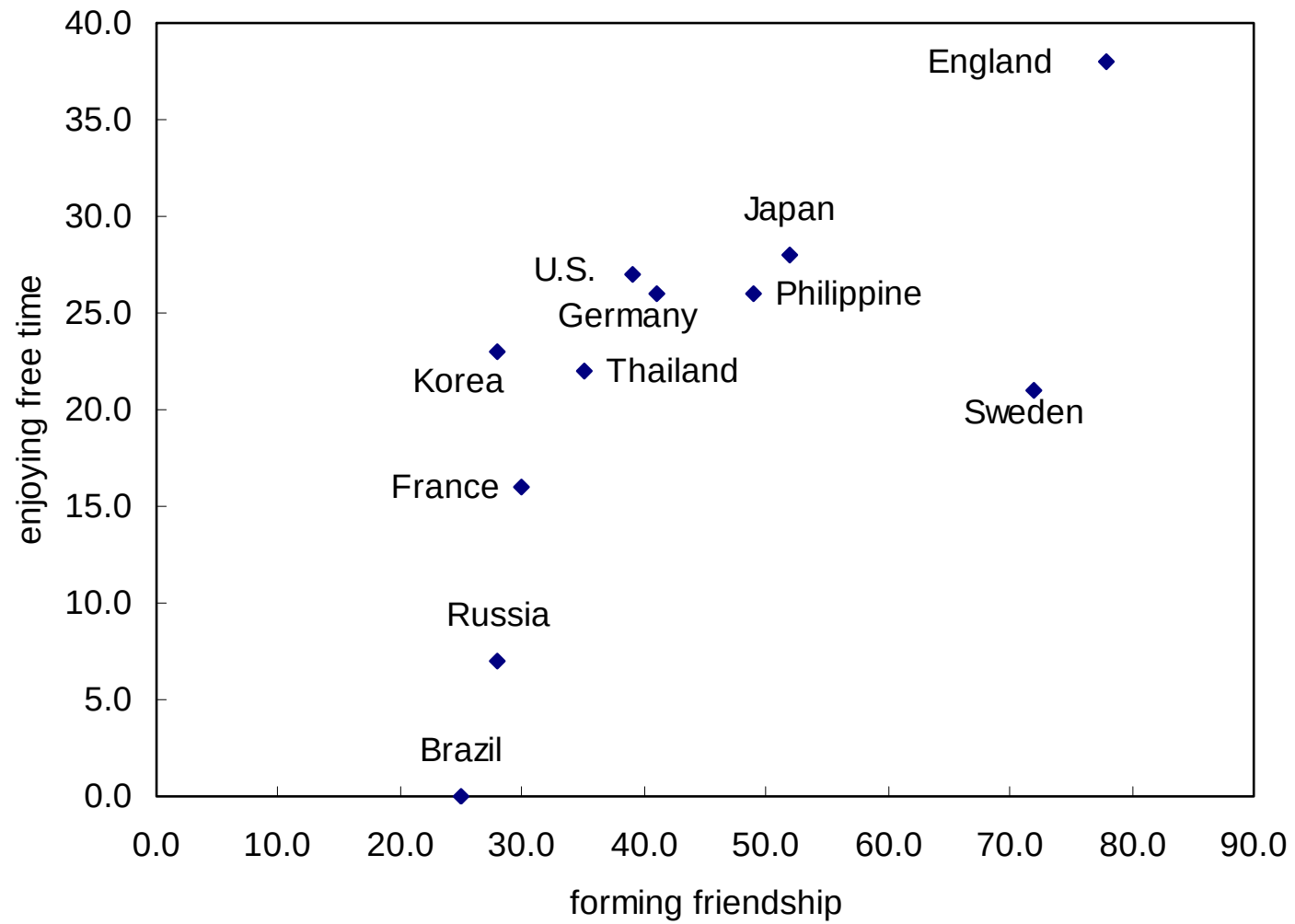
significance of university education ①



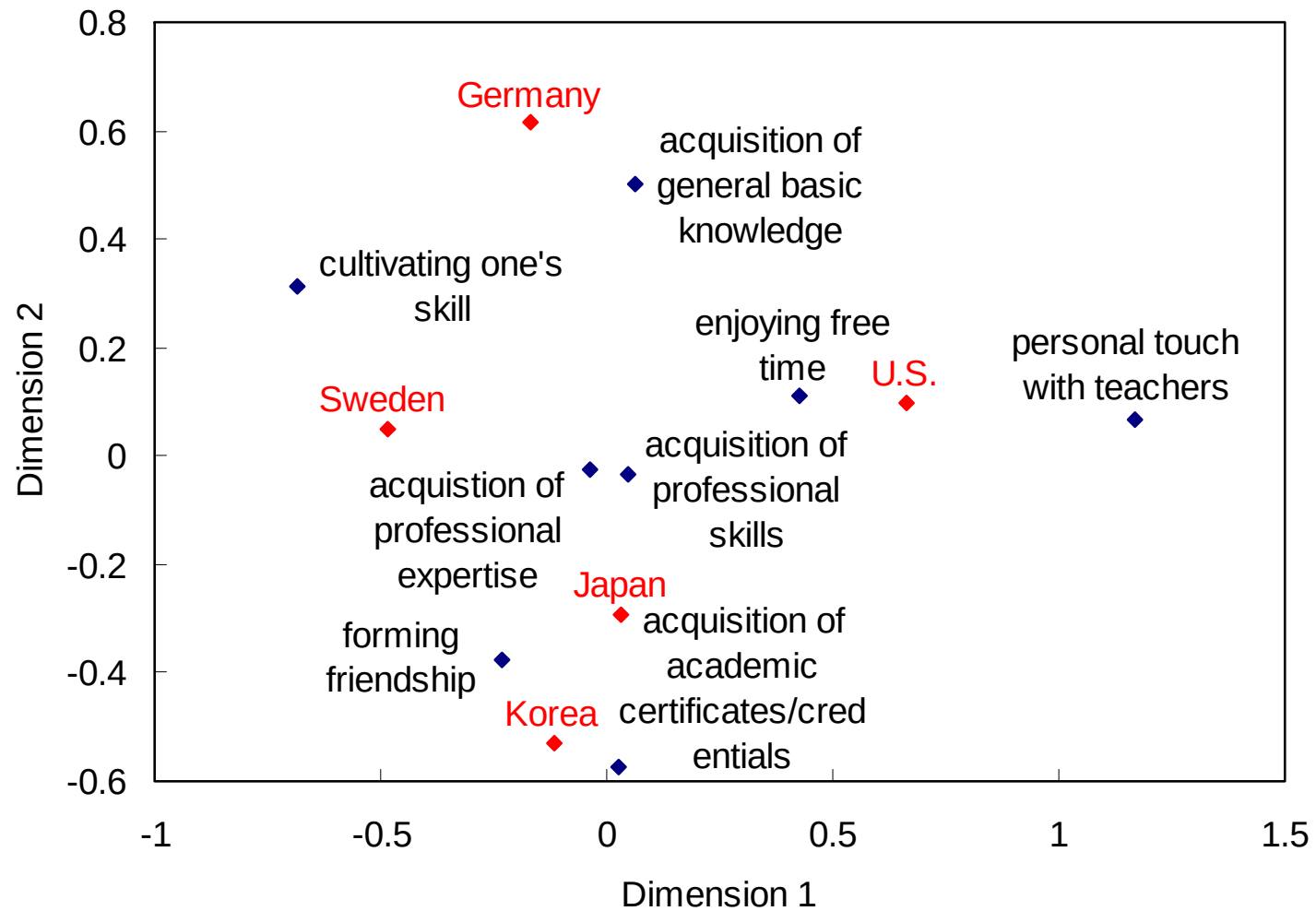
significance of university education②



significance of university education③



Correspondence analysis of country and significance of education



4. グローカル化時代における大学教育のミッション

4) グローカリゼーション: 定義と展望

定義: グローバリゼーションとローカリゼーションの同時進行と相互作用の拡大

★グローバルゼーション

- ・人・資源・文化のグローバルな移動と相互作用の拡大
- ・国際的な協力・協調により解決すべきグローバルな諸問題(環境破壊、New threatsなど)の増大
- ・**知識・技術・資格・規範のグローバル・スタンダード化**
例: EUにおけるBologna Process(1999): 移動性促進(エラスムス→ソクラテス)、ECTS(European Credit Transfer System)、学位の同等性確保
: **英語の教授言語・研究言語としての優越化と留学生の英語圏への集中**

★ローカリゼーション

- ・ローカル: 人々が所属・生活・参加・想像・継承する集団・文化・世界
例: エスニック・カルチャー、地域文化、国民文化
- ・ローカルの価値・自律性への尊重と平和的共存・相互交流(共生)
- ・ローカルの活性化と持続的発展への関心の増大と協働の促進

★グローカリゼーション

- ・グローバルゼーションのローカルな世界への浸透
- ・ローカルな文化のグローバルな世界への反照
~ **Power/Cultural Politics→アジェンダ・セッティング能力の重要性**

4. グローカル化時代における大学教育のミッション

5) グローカル化時代に期待される 大学教育の役割とEducated Person

- ・専門的エリート

専門性と専門職倫理を備えた人材

- ・市民的エリート

多様な社会的活動に参加・協働し、
リーダーシップを発揮する責任ある市民

Thank You!

参考文献

- 藤田英典 (1997).『教育改革』岩波書店 [中国版:張琿華 & 許敏訳 *Zouchu Jiaoyu Gaige de Wuqu*. 人民教育出版社 2000年]
- Fujita, H. & Wong, S-K. (1999). "Postmodern Restructuring of the Knowledge Base in Japanese Mass Education: Crisis of Public Culture and Identity Formation." *Education Journal*, Vol.26, No.2 (Winter 1998)/Vol.27, No.1 (Summer 1999), The Chinese University of Hong Kong, pp.37-53.
- 藤田英典 (1999).「変動社会における青少年の生活と意識」総務庁青少年対策本部『第6回世界青年意識調査細分析報告書』11-40頁
- Fujita, H. (2000). "Education Reform and Education Politics in Japan." *The American Sociologist*, Fall 2000, pp. 42-57.
- 藤田英典 (2000).『市民社会と教育』世織書房
- 藤田英典 (2003).「高等教育大衆化時代における大学の理念と課題」蓮實重彦、A・ヘルドリヒ、広渡清吾編『大学の倫理』東京大学出版会、94-118頁
- 藤田英典 (2004).「グローバル化社会における青少年の生活と意識」内閣府政策統括官(総合企画調整担当)『第7回世界青年意識調査細分析報告書』87-159頁
- 藤田英典 (2005).『義務教育を問いなおす』筑摩書房
- アメリカの大学カリキュラム改革:シカゴ大学、コロンビア大学、ハーバード大学のHP
- ICUの教学改革(1)～(3):国際基督教大学HP
- ICUの教学改革(4):ICU教学改革委員会『教学改革計画の概要』(ARC2006)より